優しい流れに会いにゆく

千葉市の川コンセプトブック

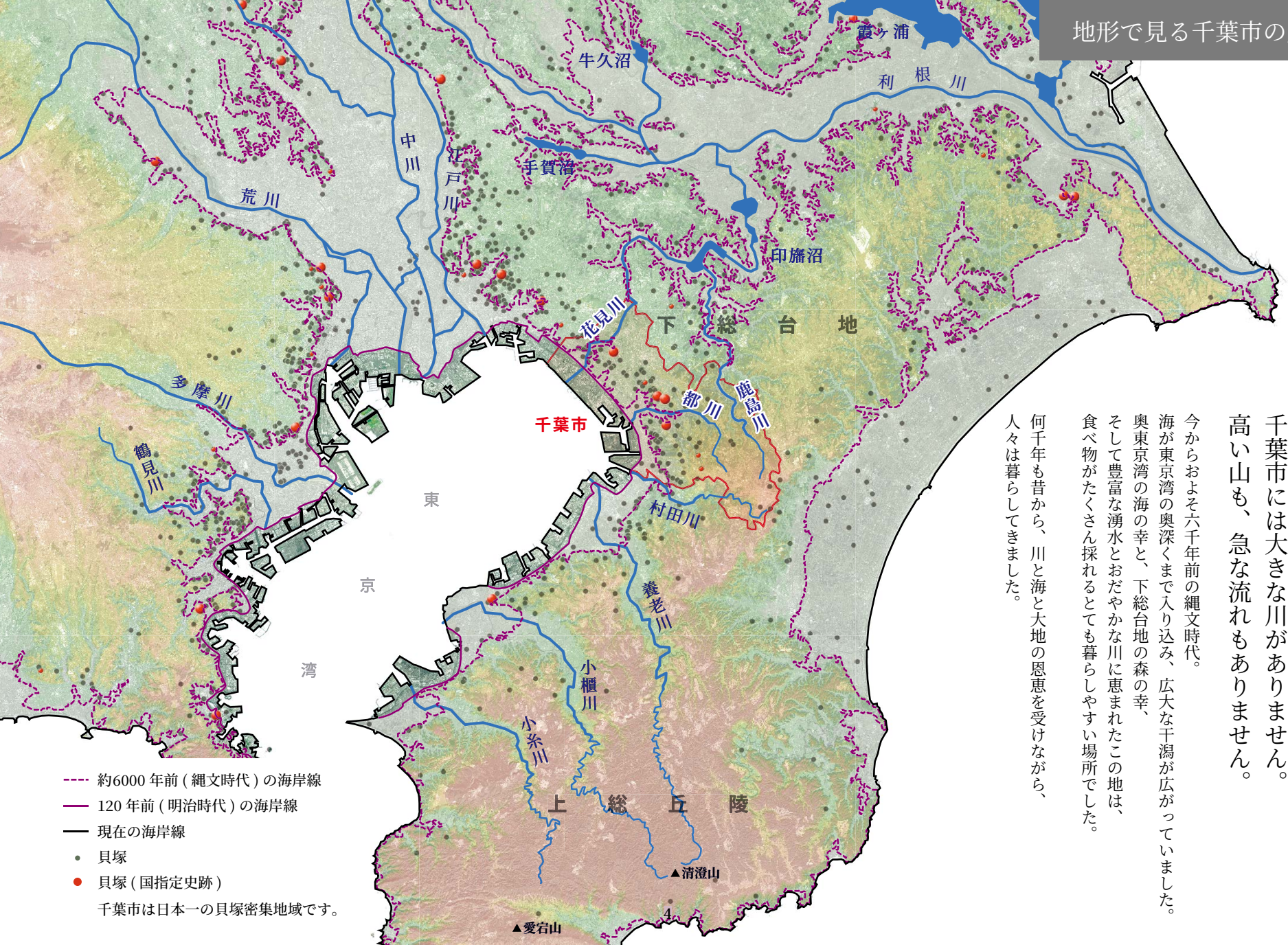
まちを流れ、田園を流れ
こころとくらしを潤す

千葉市を流れる多くの川から
三つの流れをご紹介しましょう
都川　花見川　鹿島川は
それぞれに深い歴史や特徴
役割や美しさを抱いて
わたしたちのこころとくらしの中を
流れ 潤してくれます

優しい流れに会いにゆく
目次

地形で見る千葉市の川　4
千葉市の川 まち×農　6
都川　8
花見川　24
鹿島川　34
川の年表　44
メッセージ　46

左ページ写真／『春の里山』（撮影：八木和主夫）千葉市の川の風景フォトコンテスト応募作品（都川）



千葉市には大きな川がありません。高い山も、急な流れもありません。

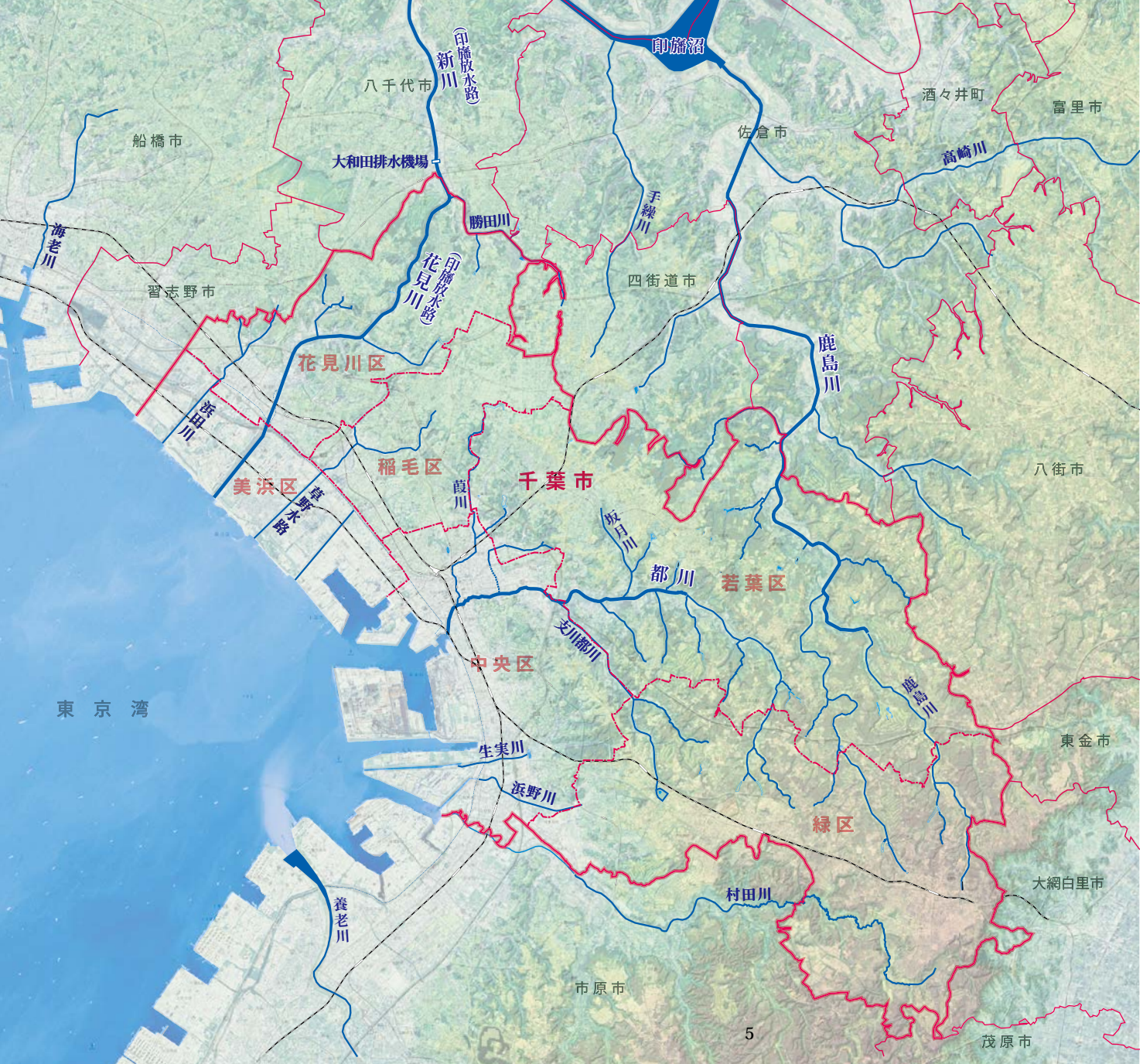
今からおよそ六千年前の縄文時代。
海が東京湾の奥深くまで入り込み、広大な干潟が広がっていました。
奥東京湾の海の幸と、下総台地の森の幸、
そして豊富な湧水とおだやかな川に恵まれたこの地は、
食べ物がたくさん採れるとても暮らしやすい場所でした。

何千年も昔から、川と海と大地の恩恵を受けながら、
人々は暮らしてきました。

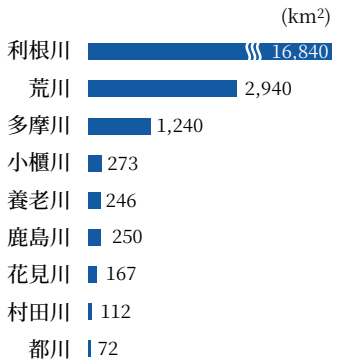
千葉市には小さな川がたくさんあります。

上流では幾筋もの「谷津」が形成され、農地や樹林地が広がります。
下流では市街地の中を流れ、都会の暮らしを演出します。
同じ川でも、川の印象はガラッと変わります。

広い市域に水源から河口までである千葉市は、
川のいろいろな風景に親しむことができるまちです。



河川の流域面積比較



※花見川の流域面積は上流の新川分を含みます。

まちをつらぬき ビルの谷間をゆく

『家族団らんの灯り』（撮影：伴 博之）千葉市の川の風景フォトコンテスト花見川賞受賞作品

まちなかの流れ

ふたつの顔

『鹿島川の秋』（撮影：伴 博之）千葉市の川の風景フォトコンテスト入選作品

原風景をまもり 田園をはぐくむ

農村の流れ

千葉市の川

都川

田園から海辺まで 人の傍で流れ続ける

東の台地から西の海辺へ
農村から貿易港へ
石器の時代からコンピュータの時代へ
まちの真ん中を流れる川は
千葉市の骨格を体現する

左ページ写真／『Healing 青い朝 朝活』（撮影：@leopard7878aquarius）千葉市の川の風景フォトコンテスト応募作品（都川）

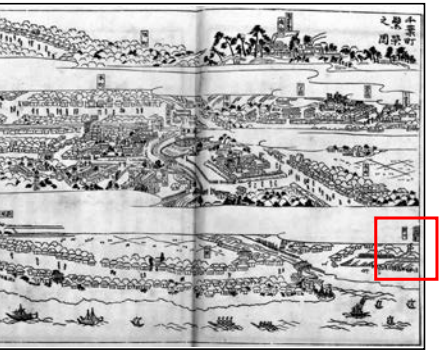
縄文～江戸～現代　千葉の歴史を映す水面

都川は千葉市のほぼ中央を東西にゆく流れ。その歴史は七～八千年前の縄文時代まで遡ります。台地に住んだ人々は都川に沿って海に下り、貝や魚を獲って豊かな食生活を営みました。

鎌倉・室町期に水陸交通の要衝である千葉を拠点とした千葉氏は、川を境に館を北、南を町人地に分けたといわれます。

江戸期は都川活躍の時代。千葉周辺の年貢米が河口に集められます。当時の佐倉藩は寒川地区に『寒川御蔵』を建てて年貢米や特産品の炭を集め、高値で江戸に売ることで財政立て直しをめざしました。御蔵は明治まで残り、監獄にも流用されます。現在の千葉刑務所につながる歴史の一面です。

15 世紀中頃の千葉の想定図。緑色部分が微高地、白色が台地、水色が湿地帯（千葉市立郷土博物館発行『史料で学ぶ千葉市の今むかし』より引用）



明治 24 年発行『千葉繁昌記』の絵図『千葉町繁栄之図』の端に監獄に転用された寒川御蔵が描かれている（所蔵：成田山仏教図書館　写真提供：千葉市立郷土博物館）

千葉の川人

遠浅の海に注ぐ 都川は千葉の母なる川

千葉市海まつり協議会 会長
鈴木 年樹さん

都川は太古の昔、干潟と入江で構成されていた頃の千葉の歴史を知る川です。

貝塚の発達は多くの人々が住んだ土地の豊かさを示し、市花であるオオガハスも、広大な湿地が広がっていた古代の風景と重なります。干潟が乾いて微高地となった都川河畔に千葉氏が居城を構え、河口と海の舟運は繁栄をもたらしました。どれも都川が語る“川と共にある文化”です。

遠浅の海に注ぐこの川があったことで千葉港は日本一の港にもなりました。

私の出身地である寒川地区は、かつて都川と東京湾の風景が同化していたところです。ところが埋立で川と海が離れ離れになり、水との関わりを失って人の心が荒んだこともありました。

身近にある水は人の心や暮らしに潤いを与えて安心させ、自分の住むまちを大事にすることにつながっていきます。同時に、地域の歴史を知ることは「自分が何者であるか」を考え直す機会でもあります。

川と共にはぐくまれた文化を知る心ある人々が、このまちに血を通わせていくのだろうと思います。

農業への貢献はさらに重要です。奨励された新田開発で千葉の海辺にも田んぼが開かれるも、砂質の土壌は常に水が不足し農民は苦しむばかり。そんな人々を救うために寒川の名主・布施丹後常長親子がつくったのが『丹後堰』です。

現在の京葉道路が都川を越えるあたりに堰と水門をつけ、五田保の海辺まで続く長大な用水路を引きました。

１６１３年の完成以来、かたちを変えながら三百年もの間、丹後堰は使われ続けました。今も都川水の里公園の一角には、昭和三十年代につくられたコンクリート製の堰や水門が残り、その歴史を伝えています。

近代に至っても、東京湾と房総内陸を結ぶ玄関口として都川は物流を担い続けました。しかし昭和初期の臨海工業地帯計画で沿岸部は埋立が進み、工業地帯へと変貌。

丹後堰周辺を俯瞰する。正面に水門、右上に支川都川が見える

今は国際貿易港となり、川との関連は薄れました。

けれど都川と東京湾はともに千葉市を代表する水辺。積層する歴史を振り返りつつ、自然と人の共生へと回帰をめざす現代にふさわしい新たな水辺を、みんなで考え、つくるときがきています。

かつての都川河口風景

都川

田園から海辺まで 人の傍で流れ続ける

一歩近づくと 親しげな水音が迎えてくれる

澄んだ水が湧き出す自噴井『太郎』

昔から人の近くを流れ続ける都川。そんな川との距離をより縮められるスポットもあります。

そのひとつが、都川と支川都川の合流点近くに位置する都川水の里公園。洪水時に氾濫した川水を貯める遊水池の一部に公園機能をもたせ、豊かな水の気配であふれています。

園内には小さな水田がつくられ、都川が育んできた田園風景を間近で楽しめます。市民向けに『稲作体験講座』も開かれ、田植えや稲刈り、脱穀などの米づくりを肌で感じ、味わえる場です。

都川水の里公園では旧都川の流れも残されている

その近くにある自噴井（じふんせい）『太郎』も公園のシンボル。都川流域は昔から地下水が豊かで、自ら噴き出す湧水があちこちで見られるのです。澄んだ冷たい水が湧き出す太郎の周辺は野生のセリ類も繁茂し、心地よい水辺空間となっています。

まちなかの公園と都川が仲良く寄り添う場も存在します。

猪鼻城跡のはす向かい、都川の右岸に位置する本町公園には、水面まで直接つながる親水スペースが整備されています。

公園内の緑地から３ｍほど階段を降りていくと、川に運ばれた砂が堆積する岸辺へとたどり着きます。河口を間近に控えて都川の流れはおだやか。

魚影は少し見えづらいものの、岸辺の砂地に点々と続く足跡を見つけました。水鳥たちにとっても大切な、都川はまさに「みんなの川」。週末、気軽な散歩コースとして出かけてみたいものです。

本町公園の親水空間

流れに沿い歩いて出会う 都会の生き物たち

流れを目にすればつい「何かいないかな」と目を凝らしてしまう、たとえ都会の真ん中であっても…川には人の心を引きつける不思議な力があります。

千葉市の中心部を通る都川下流域にも、さまざまな生き物たちがたくましく暮らしています。

本町公園の前にかかる旭橋から見下ろすと大きな魚が泳いでいました。ここは都川が東京湾に注ぐ最河口にほど近く、海の水が混じる汽水域。海水魚のボラやスズキなども集まりやすい場所です。

魚たちが集まる旭橋

千葉の川人

人工的でない河川整備を 生物は自然護岸が棲みやすい

NPO 法人都川の環境を考える会 事務局長
土屋 潔さん

わたしたちの NPO では河川清掃や水質・生態調査、栗石投入によるアユの餌場づくりなど生物の保護保全、岸辺の樹木や草花の植栽管理などに取り組んでいます。生態調査や農耕体験もやっていて、安全を考えてもらった上で親子連れでの参加もしてもらっていますよ。

川の整備や管理について考えるのは、人工的でない方がいい、ということ。水生生物を保護するには、川の中にある小さい島はそのまま残すなど、整備しすぎない、人工的でない方が生き物は棲みやすいです。

今の都川は川面に近づけるスポットは限られています。でも都川水の里公園や『都川いきもの広場』の前を走る散策路にくれば、近くまで行けますよ。

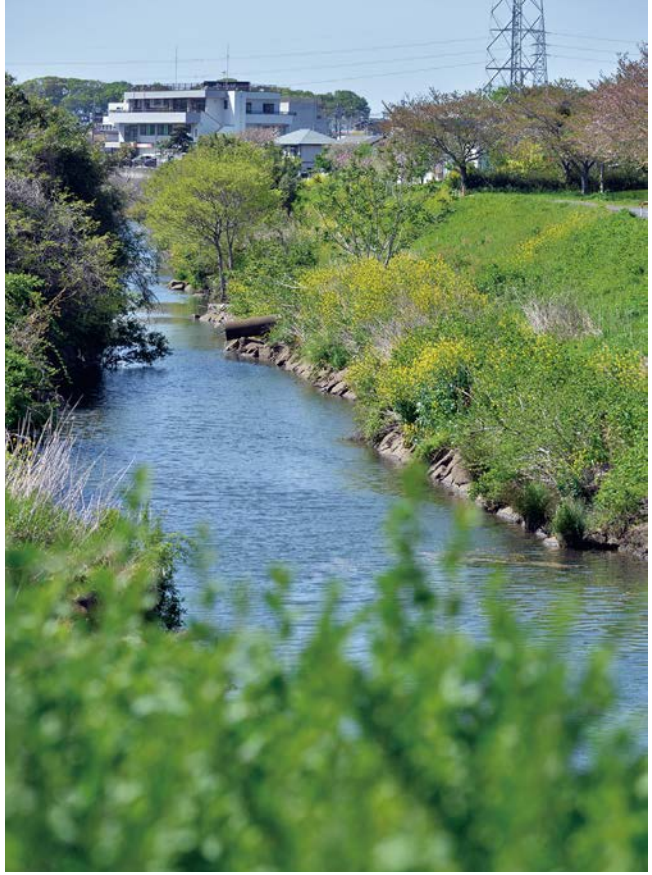
都川では橋をはじめとするいくつかのポイントで、ＮＰＯによる定期的な水質検査や水生生物の生態調査が続けられていますが、ＣＯＤのほかに透視度や臭気、色などの値はどれも好成績。都川は最下流域においても、実は「かなりきれいな川」なのです。

都川にはさまざまな淡水魚が生息しています。そのなかには『清流の女王』の異名を持つアユの姿も。

上流から下流まで全体に高低差が少なく、ゆったりゆるやかに流れる千葉の川は一見、清流には遠く、せせらぎや透明感には物足りなさも感じます。が、その実力はあなどれず、岸辺に釣り人の姿を見かけない日はありません。

ＮＰＯ法人都川の環境を考える会では２０２２年、都川の生物たちを展示・紹介する水族館『都川いきもの広場』を開設し、一般公開に踏み切りました。

ここではアユやオイカワなど清流に棲むものからスジエビやドジョウ、スッポンまで、都川の生物を大きな水槽で観察できます。原則週末のみの開館ですが、一度足を運んでみては。



ところどころに残る土や草木による自然護岸は、生き物や魚にとって棲みやすい環境

『都川と父 Part2 ～釣れてるかい？～』
（撮影：@yumigon0108）千葉市の川の風景フォトコンテスト応募作品

都川・支川都川に棲む主な生き物

- ●アユ
- ●カダヤシ
- ●スジエビ
- ●タモロコ
- ●ドジョウ
- ●メダカ
- ●オイカワ
- ●ギバチ
- ●スナヤツメ
- ●トウヨシノボリ
- ●マハゼ
- ●モツゴ　　など

アユ

オイカワ

支流

貝塚とビオトープ 古代と現代を抱く坂月川

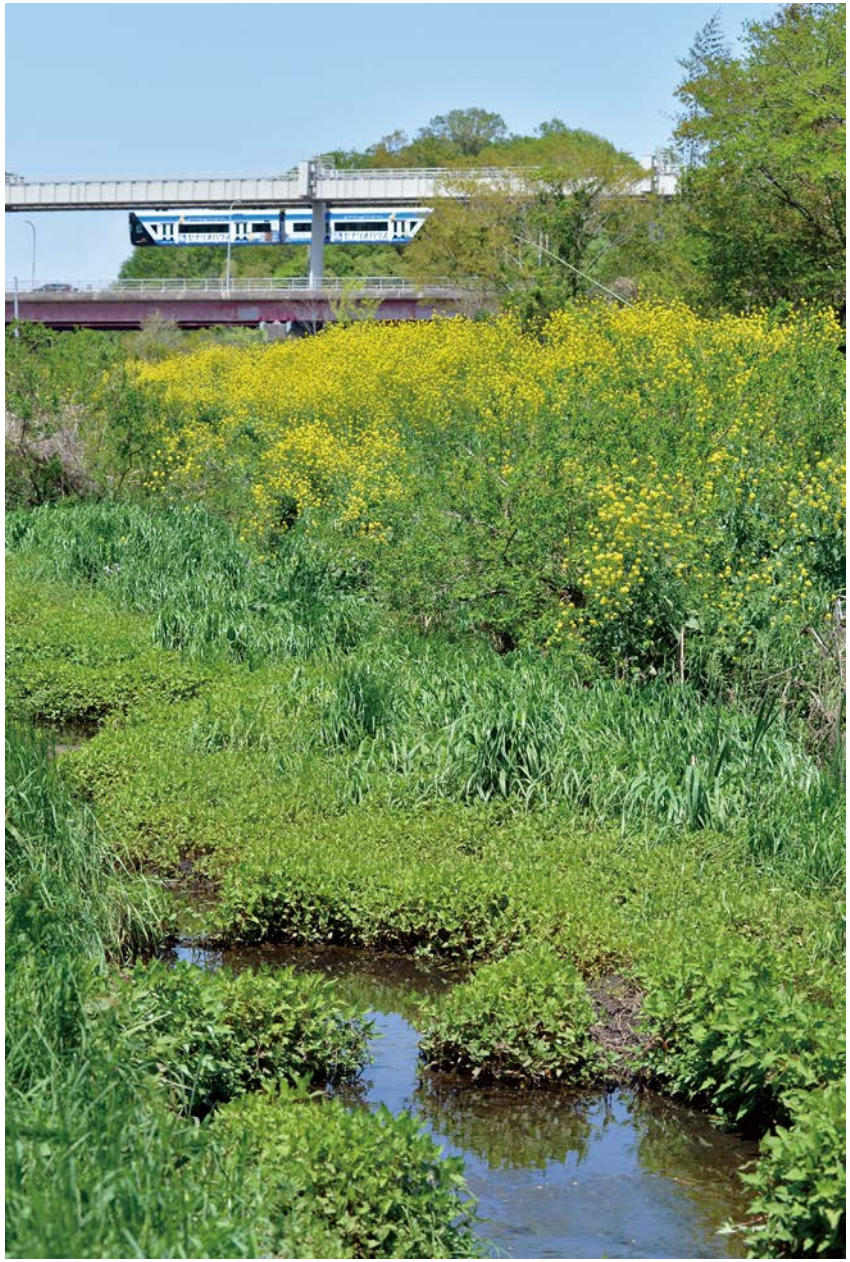
千葉県は国内屈指の遺跡や埋蔵文化財の宝庫といわれていますが、代表格の特別史跡・加曽利貝塚は坂月川を東に望む台地上に立地しています。

この地で暮らした縄文人は、動植物資源のほか、坂月川や都川を利用して海に到り、貝や魚などの海産資源を獲得していました。自然の恵みを享受しつつ安定した生活環境を維持できたことで、約二千年もの間、ムラが繰り返しつくられることになったのです。

発掘調査当時の北貝塚貝層断面
（写真提供：千葉市立加曽利貝塚博物館）

加曽利貝塚の東を流れる坂月川の周辺は、21 世紀にあってもいにしえの趣

空から見る加曽利貝塚と坂月川
（写真提供：千葉市立加曽利貝塚博物館）



坂月川周辺には『加曽利貝塚縄文遺跡公園』をはじめ、斜面林や緑地、湿地が今も保全され里山的景観が共存しています。住宅地の中で大昔を彷彿とさせる自然に出合える、貴重なエリアといえるでしょう。

坂月川の上流には、自然の草木が岸辺を覆う童謡『春の小川』のようなビオトープも存在します。

かつては生活排水が流れていたこの川で2001年、

『川の宝石』（撮影：岡島智子）
千葉市の川の風景フォトコンテスト応募作品

希少種のニホンアカガエルやヘイケボタルが発見されたことが、地域の人々を変えました。市民グループが結成されて水質改善や清掃、生き物保全など坂月川の浄化に奔走、4年後のビオトープ開設が実現したのです。

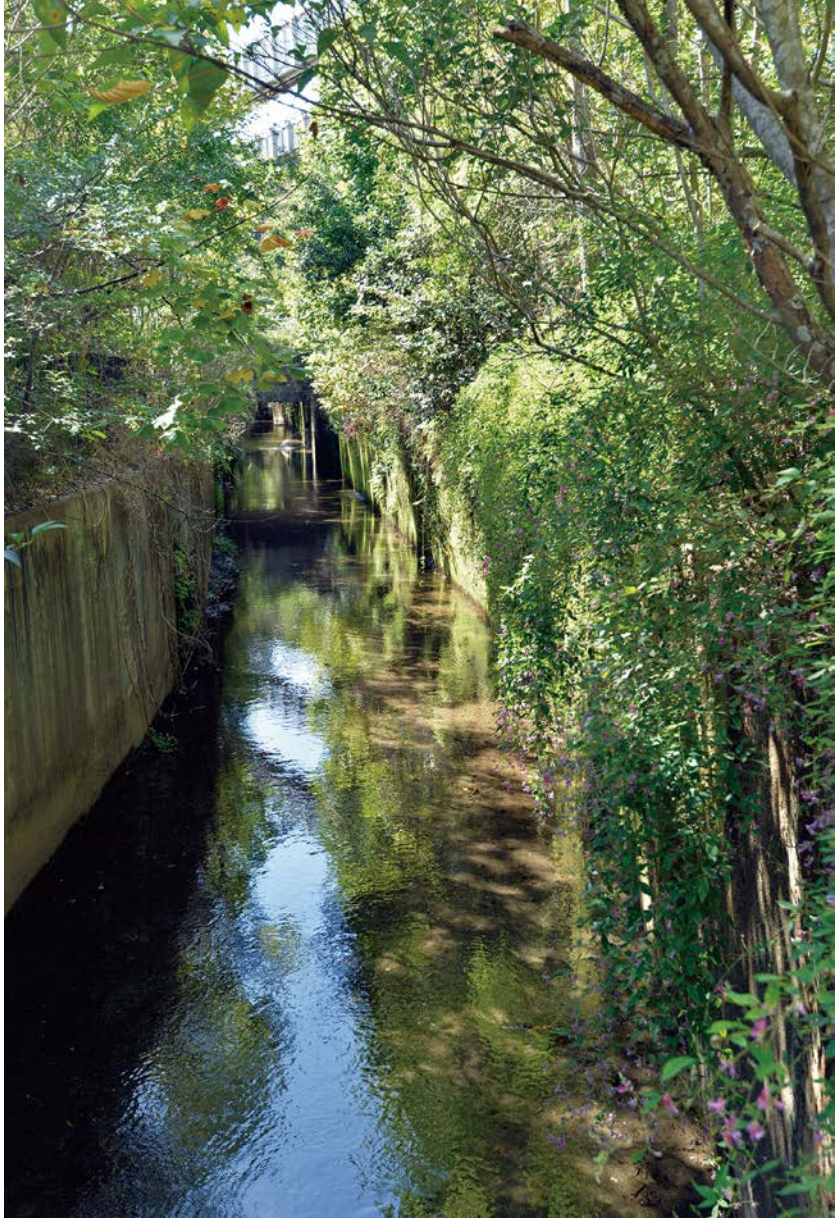
誰もがなつかしさを感じる原風景が、実は人の手でつくられ守られている…地球環境に対してわたしたちに何ができるのかを、坂月川は静かに語ってくれているかもしれません。

都川

田園から海辺まで人の傍で流れ続ける

支流

緑濃い散歩道から中心市街地を抜け 海へ 葭川（よしかわ）



ろっぽう水のみちに並走する葭川。直立護岸であっても緑したたる風景

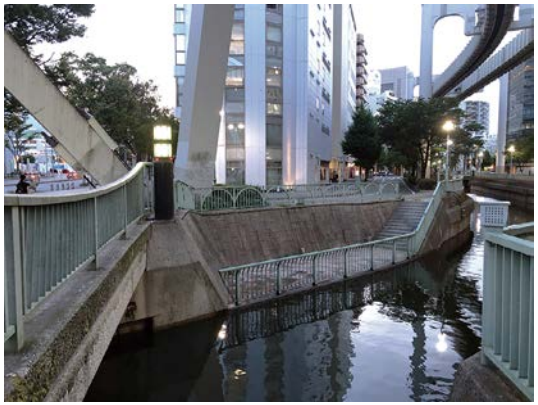
頭上にモノレールを頂き、千葉駅東側の賑やかなエリアを抜け、県庁前で都川と合流し海へ注ぐ。葭川（よしかわ）＝絵に描いたような都市河川のイメージでしょう。

しかしその上流には思いもかけない緑の散歩道が寄り添っています。ここはかつて六方野と呼ばれ、人々が草を刈って利用した入会地。葭川の源流・六方調整池があり、流れ出す葭川は『ろっぽう水のみち』と名づけられた遊歩道を伴って、動物公園を縁取りながら市の中心部に向け南下していくのです。

過去の台風災害をふまえ、増え続ける都市人口を浸水被害から守るため、コンクリートの直立護岸を鎧のようにまとって、葭川は中心市街地を流れて行きます。そこにはいくつもの橋がかかり、プロムナードや凝ったつくりの親水テラス群、デザインされた照明が輝きます。

きわめて人工的な水面に桜並木や紅葉、都会の夜景が映り込むその風景は、千葉の川を象徴するシーンのひとつかもしれません。

『葭川沿いの夜桜』（撮影：@isashira）千葉市の川の風景フォトコンテスト都川賞受賞作品



葭川は中心市街地にも多くの親水空間やテラスをもっている。散歩ついでに探してみたい

凡例

- 川
- 川(暗渠)
- 池・調整池
- サイクリングコース
- 通路・道
- 通路・道(未舗装)
- 高速道路
- 国道
- 県道
- 市道
- 鉄道(JR)
- 鉄道(私鉄)
- 分水界
- 市区境
- 旧国境
- 主な公園・緑地
- 特別緑地保全地区
- 橋
- 貝塚
- 史跡
- 文化財
- 湧水
- ビューポイント

(m) 100 50 0

scale=1/45,000

0 1km

都川周辺図

都川マップ

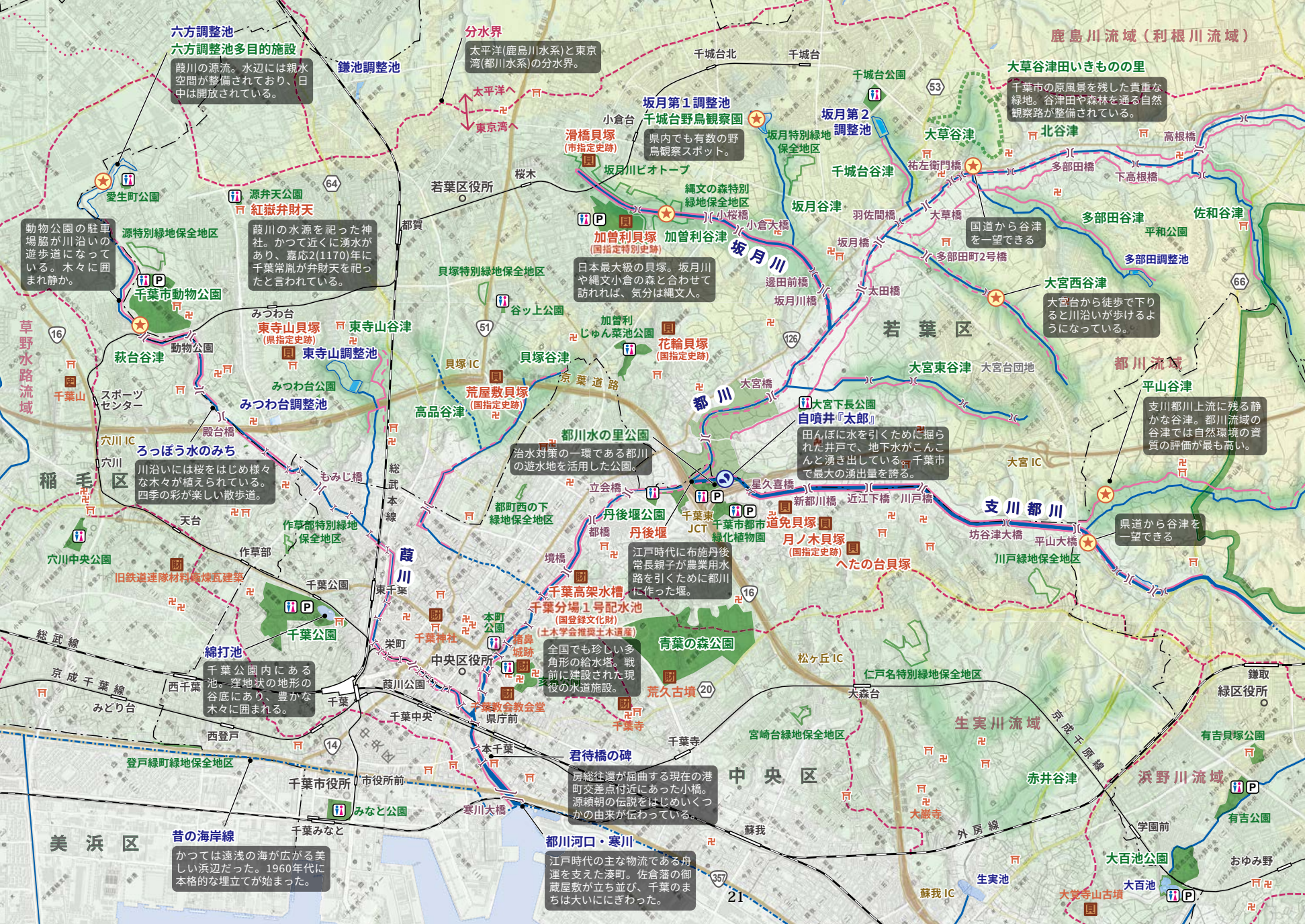
田園から海辺まで人の傍で流れ続ける

●都川水の里公園

都川と支川都川の合流地点に広がり、今も整備が続く広大な公園。自噴井『太郎』や湧水を活用した水田などもあり、一年中楽しめる

●坂月川の遊歩道

加曽利貝塚を中心に、千葉の古い里山風景を残す『縄文の森』から歩き出し、ビオトープやモノレールの風景を楽しみながら都川本流までつながる遊歩道。散歩にもランニングにも最適


六方調整池
六方調整池多目的施設
葭川の源流。水辺には親水空間が整備されており、日中は開放されている。
鎌池調整池
分水界
太平洋(鹿島川水系)と東京湾(都川水系)の分水界。
太平洋へ
東京湾へ
千城台北
千城台
千城台公園
鹿島川流域（利根川流域）
大草谷津田いきものの里
千葉市の原風景を残した貴重な緑地。谷津田や森林を通る自然観察路が整備されている。
坂月第１調整池
千城台野鳥観察園
県内でも有数の野鳥観察スポット。
小倉台
坂月第２調整池
坂月特別緑地保全地区
大草谷津
北谷津
高根橋
滑橋貝塚
(市指定史跡)
坂月川ビオトープ
若葉区役所
桜木
祐左衛門橋
多部田橋
下高根橋
千城台谷津
縄文の森特別緑地保全地区
坂月谷津
羽佐間橋
大草橋
多部田谷津
佐和谷津
平和公園
愛生町公園
源弁天公園
紅嶽弁財天
葭川の水源を祀った神社。かつて近くに湧水があり、嘉応2(1170)年に千葉常胤が弁財天を祀ったと言われている。
源特別緑地保全地区
動物公園の駐車場脇が川沿いの遊歩道になっている。木々に囲まれ静か。
都賀
小桜橋
小倉大橋
加曽利貝塚
(国指定特別史跡)
加曽利谷津
坂月川
国道から谷津を一望できる
坂月橋
多部田町2号橋
多部田調整池
千葉市動物公園
貝塚特別緑地保全地区
日本最大級の貝塚。坂月川や縄文小倉の森と合わせて訪れれば、気分は縄文人。
邊田前橋
太田橋
大宮西谷津
大宮台から徒歩で下りると川沿いが歩けるようになっている。
みつわ台
東寺山貝塚
(県指定史跡)
東寺山谷津
谷ッ上公園
加曽利じゅん菜池公園
花輪貝塚
(国指定史跡)
若葉区
草野水路流域
萩台谷津
動物公園
東寺山調整池
貝塚IC
貝塚谷津
京葉道路
大宮東谷津
大宮台団地
都川流域
千葉山
スポーツセンター
みつわ台公園
荒屋敷貝塚
(国指定史跡)
都川
大宮橋
平山谷津
みつわ台調整池
高品谷津
大宮下長公園
自噴井『太郎』
田んぼに水を引くために掘られた井戸で、地下水がこんこんと湧き出している。千葉市で最大の湧出量を誇る。
支川都川上流に残る静かな谷津。都川流域の谷津では自然環境の資質の評価が最も高い。
殿台橋
穴川IC
穴川
ろっぽう水のみち
川沿いには桜をはじめ様々な木々が植えられている。四季の彩が楽しい散歩道。
もみじ橋
都川水の里公園
治水対策の一環である都川の遊水地を活用した公園。
大宮IC
稲毛区
総武本線
立会橋
星久喜橋
新都川橋
近江下橋
川戸橋
支川都川
都町西の下緑地保全地区
丹後堰公園
丹後堰
千葉東JCT
千葉市都市緑化植物園
道免貝塚
月ノ木貝塚
(国指定史跡)
坊谷津大橋
平山大橋
県道から谷津を一望できる
天台
作草部特別緑地保全地区
都橋
江戸時代に布施丹後常長親子が農業用水路を引くために都川に作った堰。
へたの台貝塚
川戸緑地保全地区
穴川中央公園
作草部
境橋
葭川
旧鉄道連隊材料倉庫煉瓦建築
千葉公園
東千葉
千葉高架水槽
千葉分場１号配水池
(国登録文化財)
(土木学会推奨土木遺産)
千葉公園
本町公園
千葉神社
栄町
鼻城跡
中央区役所
青葉の森公園
全国でも珍しい多角形の給水塔。戦前に建設された現役の水道施設。
松ヶ丘IC
総武線
綿打池
千葉公園内にある池。窪地状の地形の谷底にあり、豊かな木々に囲まれる。
京成千葉線
西千葉
葭川公園
千葉
荒久古墳
仁戸名特別緑地保全地区
大森台
鎌取
緑区役所
みどり台
千葉教会教会堂
千葉中央
県庁前
千葉寺
生実川流域
有吉貝塚公園
西登戸
本千葉
君待橋の碑
宮崎台緑地保全地区
京成千原線
登戸緑町緑地保全地区
千葉市役所
市役所前
房総往還が屈曲する現在の港町交差点付近にあった小橋。源頼朝の伝説をはじめいくつかの由来が伝わっている。
中央区
赤井谷津
浜野川流域
みなと公園
寒川大橋
大巌寺
有吉公園
千葉みなと
蘇我
外房線
学園前
美浜区
昔の海岸線
かつては遠浅の海が広がる美しい浜辺だった。1960年代に本格的な埋立てが始まった。
都川河口・寒川
江戸時代の主な物流である舟運を支えた湊町。佐倉藩の御蔵屋敷が立ち並び、千葉のまちは大いににぎわった。
大百池公園
おゆみ野
生実池
大百池
蘇我IC
大覚寺山古墳
21

凡例

- 川
- 川(暗渠)
- 池・調整池
- サイクリングコース
- 通路・道
- 通路・道(未舗装)
- 高速道路
- 国道
- 県道
- 市道
- 鉄道(JR)
- 鉄道(私鉄)
- 分水界
- 市区境
- 旧国境
- 主な公園・緑地
- 特別緑地保全地区
- 橋
- 貝塚
- 史跡
- 文化財
- 湧水
- ビューポイント

N

(m) 100 50 0

scale=1/12,000

0 300m

都川都心部

都川

市中心部

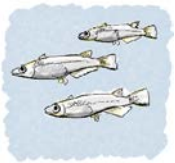
田園から海辺まで人の傍で流れ続ける

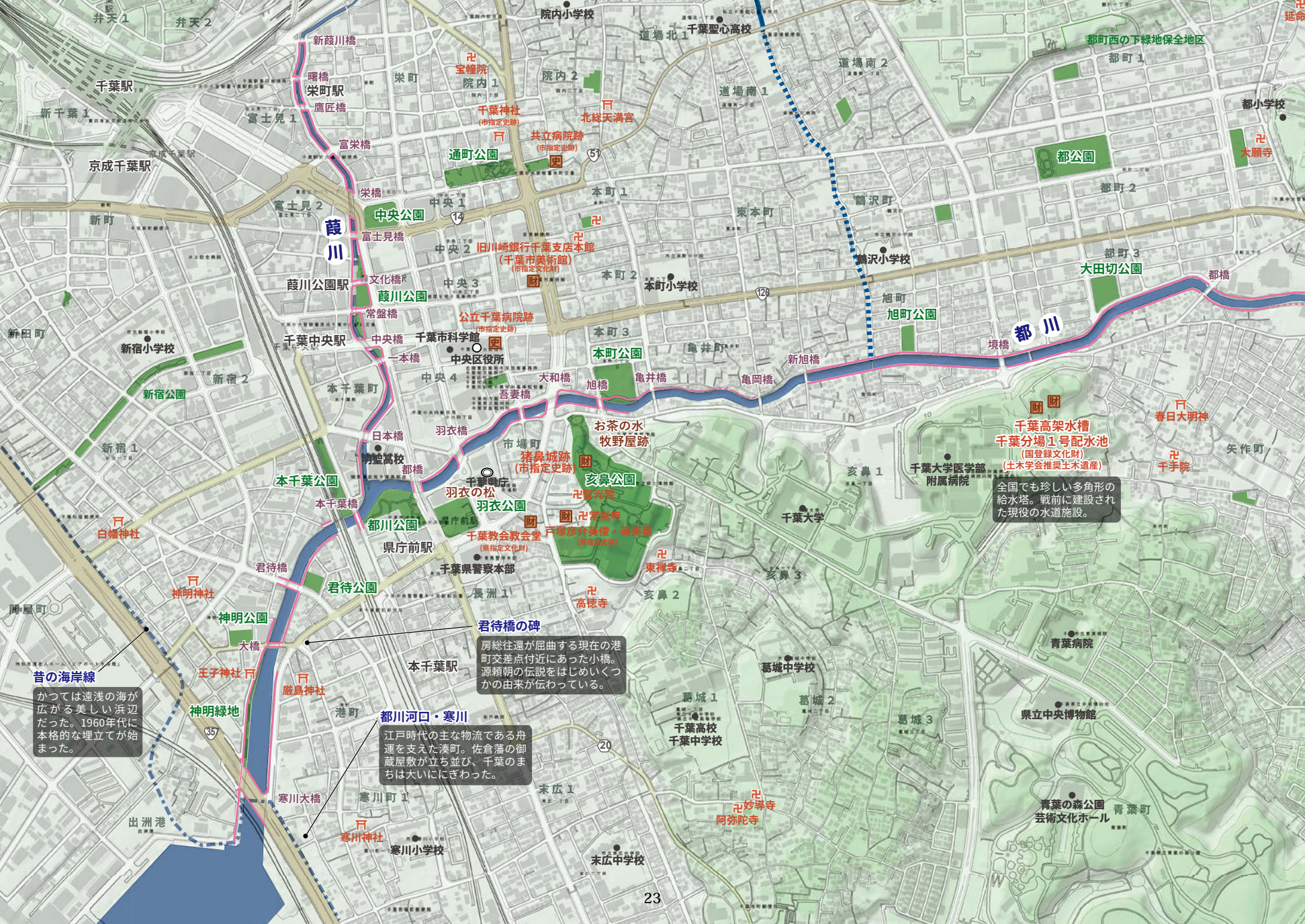
●ろっぽう水のみち

六方調整地が出発点。緑の郊外に始まり、動物公園の脇を通って、市の中心までを葭川と共に歩ける遊歩道

●本町公園付近

市の中心部を流れる都川最河口部をたどって歩くことができる。魚の姿が見える旭橋や、本町公園の親水空間にも立ち寄ってみたい




千葉駅
京成千葉駅
新千葉1
弁天1
弁天2
新葭川橋
曙橋
栄町駅
鷹匠橋
富士見1
富栄橋
栄橋
富士見2
新町
葭川
富士見橋
葭川公園駅
文化橋
葭川公園
常盤橋
中央橋
千葉中央駅
新田町
新宿小学校
新宿2
新宿公園
新宿1
一本橋
本千葉町
日本橋
納堀高校
都橋
本千葉公園
本千葉橋
白幡神社
都川公園
県庁前駅
君待橋
君待公園
神明神社
神明公園
大橋
王子神社
厳島神社
本千葉駅
神明緑地
港町
寒川大橋
寒川町1
寒川神社
寒川小学校
出洲港
栄町
宝幢院
院内1
院内2
院内小学校
千葉神社
(市指定史跡)
共立病院跡
(市指定史跡)
通町公園
中央公園
中央1
中央2
中央3
中央4
旧川崎銀行千葉支店本館
(千葉市美術館)
(市指定文化財)
公立千葉病院跡
(市指定史跡)
千葉市科学館
中央区役所
吾妻橋
大和橋
羽衣橋
市場町
猪鼻城跡
(市指定史跡)
千葉県庁
羽衣の松
羽衣公園
千葉教会教会堂
(県指定文化財)
千葉県警察本部
長洲1
高徳寺
北総天満宮
道場北1
千葉聖心高校
道場南1
道場南2
本町1
本町2
本町3
本町公園
本町小学校
東本町
鶴沢町
鶴沢小学校
旭町
旭町公園
亀井町
亀井橋
亀岡橋
旭橋
新旭橋
境橋
都川
都公園
都町1
都町2
都町3
都町西の下緑地保全地区
大田切公園
都小学校
大願寺
延命
お茶の水
牧野屋跡
亥鼻公園
聖光院
常敬寺
戸塚庄介吳俊・英美墓
(市指定史跡)
東禅寺
亥鼻1
亥鼻2
亥鼻3
千葉大学
千葉大学医学部
附属病院
千葉高架水槽
千葉分場1号配水池
(国登録文化財)
(土木学会推奨土木遺産)
全国でも珍しい多角形の給水塔。戦前に建設された現役の水道施設。
春日大明神
千手院
矢作町
君待橋の碑
房総往還が屈曲する現在の港町交差点付近にあった小橋。源頼朝の伝説をはじめいくつかの由来が伝わっている。
昔の海岸線
かつては遠浅の海が広がる美しい浜辺だった。1960年代に本格的な埋立てが始まった。
都川河口・寒川
江戸時代の主な物流である舟運を支えた湊町。佐倉藩の御蔵屋敷が立ち並び、千葉のまちは大いににぎわった。
葛城中学校
葛城1
葛城2
葛城3
千葉高校
千葉中学校
妙導寺
阿弥陀寺
末広1
末広中学校
青葉病院
県立中央博物館
青葉の森公園
芸術文化ホール
青葉町

花見川

印旛沼から東京湾へ 桜がつなぐ水の道

四季折々の草木が彩り
アクティビティに人は賑わう
おだやかな流れは明るい陽光に満ち
ひたすらに治水をめざした先人の
記憶をも秘めて海へゆく

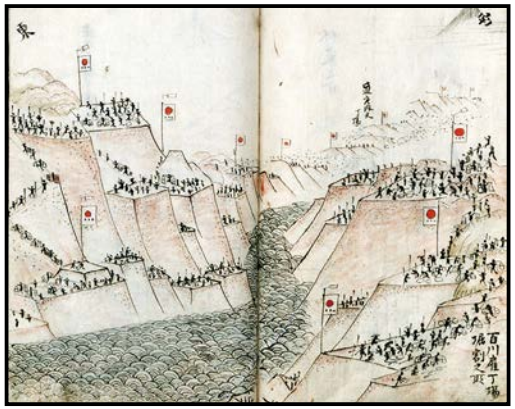
左ページ写真／『花筏』（撮影：伴 博之）千葉市の川の風景フォトコンテスト応募作品

花見川

印旛沼から東京湾へ 桜がつなぐ水の道

先人の治水への挑戦が造ったおおらかな流れ

花見川中下流域には深山幽谷の趣を見せるポイントも



『続保定記』内に描かれた印旛沼堀割普請工事の様子を表す絵図（所蔵（寄託）：酒田市立光丘文庫　写真提供：千葉市立郷土博物館）

河口部の川幅約１３０ｍ。悠然たる花見川の流れは、市内の川でも特筆される存在感でしょう。

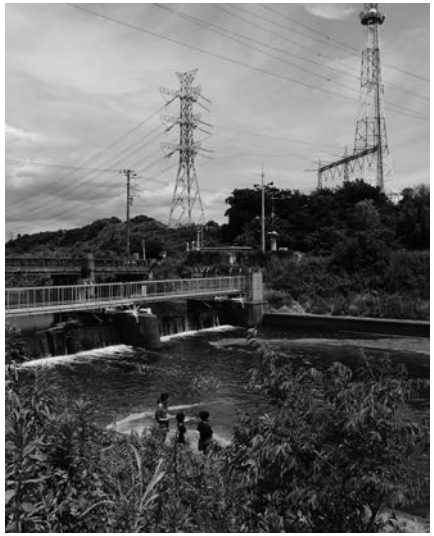
この川の正式名称は『印旛放水路』。印旛はもちろん、県北部の印旛沼を指しています。江戸の昔、増水や氾濫が多かったこの沼の水を干拓・新田開発しつつ安全に暮らせる土地にするために、現在の花見川区横戸町や柏井町を流れていたふたつの流れをつなげ、東京湾まで導く工事が行われました。

当時『印旛沼堀割普請』と呼ばれたこの大計画は、太平洋戦争の後まで続けられ、完成までにおよそ二百五十年もの月日を経ています。

とくに江戸時代の普請は困難を極めました。今もその面影が残る深い山林の現場は『ケトウ』と呼ばれる泥炭質の湿った土壌に覆われ、台風や洪水などの天災にも見舞われて作業は進みません。機械や工具もなく、粗末な小屋に寝起きしながらの危険な労働で、犠牲者も多く出ました。工事は何度も中止に追い込まれます。

その後も大きなもので2回、治水を目的に江戸期の普請が試みられましたがいずれも失敗。近代的な土木技術を得た昭和四十年代に、ようやく完成しました。そんな苦難の歴史を、流れの途中にいくつも設置された排水機場や制水門が語り継いでいます。

深山幽谷から東京湾まで。花見川の雄大な風景を、治水を願った先人の挑戦と夢がそっと支えているようです。



『花見川 長作制水門にて』（撮影：te2）
千葉市の川の風景フォトコンテスト応募作品

東京湾に陽が沈む花見川河口

花見川

印旛沼から東京湾へ 桜がつなぐ水の道

カヤックも自転車も　ここは水辺を楽しむ聖地

（撮影：@ryo_cycledna）千葉市の川の風景フォトコンテスト応募作品

川面に沿って約13㎞も続くサイクリングコースは、花見川名物となった春の桜並木をはじめ、四季折々の美しさで迎えてくれます。自転車、散歩、ランニング。一年を通じ、訪れる人々の楽しみに、いつも花見川が伴走しています。

流れと共に移動し楽しむ。花見川で体験できるアクティビティの特徴かもしれません。

昭和五十年代から本格的に始まった沿川環境の整備によって、ここは千葉の水辺を楽しむ聖地とも呼べるエリアとなりました。

千葉の川人

原風景を残す花見川で水辺と地域をつなぎたい

小島健一さん

菰田俊英さん

ミズベリング花見川
小島健一さん／菰田俊英さん

花見川沿いの花島公園お花見広場で、令和元年からカヤック体験イベントを続けています。千人以上の方々に参加いただき、みなさん水辺にハマってくれました（笑）水は体と同化するもの。建物が建ったりして周りの風景が変わっても水面はいつも変わらない。そんな魅力が水にはありますね。

流れが弱いのに加え、都心にあってほぼ自然護岸なのも花見川の強み。陸からの風景と水辺からの風景の違いに感動し、楽しんで川に興味をもってもらえています。何も言わないのに、ゴミを拾って岸に戻ってきてくれた参加者もいたんです。

花見川がカヤックや水遊びの聖地になるのが夢です。気軽に、とくに子どもたちが水に触れて川で遊べる、網でエビが獲れるような環境が必要。親御さんは心配して「川に行ってはダメ」と言うけれど、水の怖さを知れば大丈夫なんです。川に来る人が増えれば危険への意識も高まり、安全度も高まります。

この水辺と地域の人々をつなぎ「こんなにいい環境があるんだ」と知ってもらいたいのです。よりよい水辺を求める声が増えることが、環境整備につながると思っています。

よりダイレクトに水辺を感じるには、カヤックもおすすめです。

おだやかでほぼ流れのない花見川は、初心者が気軽に体験できる安全さが魅力。花島公園をスタート地点に2時間程度のガイド付きツアーに参加すれば、自然度の高い小さな旅が待っています。

2時間ほどのカヤックツアーで花見川を行けば、気分は小さな冒険者

目に入るのは水と緑と空だけ…そんな風景は、自然護岸が多い花見川ならでは。日常をひとときを忘れて、水辺の別世界に会いにゆきましょう。

ツアー後は水辺で焼きたてのマシュマロを楽しむ

花見川だけがくれる楽しさがある、わがまち

遊んだり、ぼんやりしたり、一緒に走ったり。花見川には訪れる人がそれぞれに過ごす時間を親しく迎えるスポットがいくつもあります。加えて水辺には、そこにあるだけで目が行ってしまう、ちょっと近寄ってみたくなる不思議な引力もあるのではないでしょうか。

多くの川には周囲とは少し違う広がりのある空間と、流れて輝き、ときに音もたてる「水の動き」があります。広々と開放的

最河口・美浜大橋から夕陽の東京湾を眺める

千葉の川人

川の魅力は人を集める その強みでまちづくりを

株式会社みなも 代表取締役
岩﨑 肇さん

水辺には人が自然に集まる、人間にはそんな習性があります。生きるために水は不可欠。上下水道が整う以前の社会では、人は安定的に水を得られる場所に集まり住んでいたのではないでしょうか。

川を通じて地域を活性化するには、そんな水辺の強みを活用することが大切です。

花見川は多くの千葉市民が暮らす生活圏内を流れていて、しかも大きすぎない「コブナ釣りし川」的な身近さがあります。ちょっと座りたくなる場所もある。居場所がつくりやすいのです。

「自然を体験できている」といった、川ならではのメリットにも留意して「ここに居てよかったなあ」と思ってもらえるのも大事でしょう。

川を感じる仕掛けや仕組みをつくるアイディアも必要です。たとえば地元の若い人がデートコースに選ぶような場をつくって「初デートは後楽園でなく花見川」となるようにしていくとか。生活圏に近い川辺でマルシェを開催し、暮らしの中で川を感じてもらえるような仕組みをつくるのもいいですね。

何が見えるかな？　瑞穂橋にて

な場に、飽かず見ていられるちょっと気持ちのいい存在がある…川や海、さらにまちなかや公園の噴水にまで、水のそばに人々が集まる理由は、こんなところにもありそうです。

たとえば散歩の途中で瑞穂橋からのぞく流れ。花島公園の水辺で焼いたマシュマロの味。東京湾に沈む夕陽を河口から眺める時間。そのどれもが川ならではの楽しさでしょう。そう感じるとき、花見川のあるふるさとへの思いはまたひとつ、温かくなるかもしれません。

凡例

- 川
- 川(暗渠)
- 池・調整池
- サイクリングコース
- 通路・道
- 通路・道(未舗装)
- 高速道路
- 国道
- 県道
- 市道
- 鉄道(JR)
- 鉄道(私鉄)
- 分水界
- 市区境
- 旧国境
- 主な公園・緑地
- 特別緑地保全地区
- 橋
- 貝塚
- 史跡
- 文化財
- 湧水
- ビューポイント

N

(m) 100 50 0

scale=1/45,000

0 1km

花見川周辺図

花見川マップ

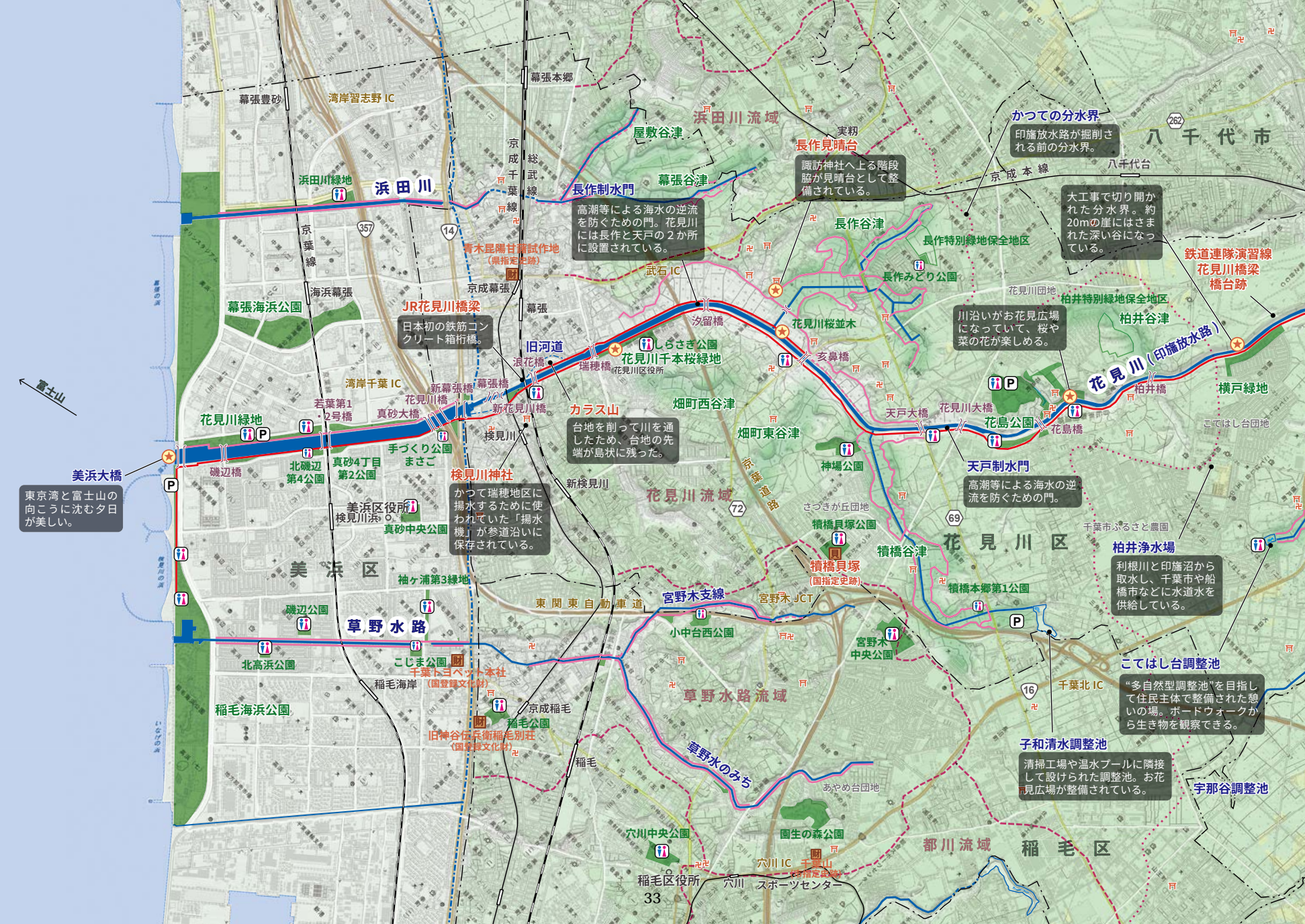
印旛沼から東京湾へ 桜がつなぐ水の道

●花見川千本桜緑地

花見川の中流域、桜並木や豊かな緑地、サイクリングコースが続くエリア。千葉市を代表するお花見スポットのひとつで、桜と菜の花の競演が毎年多くの人々を集める

●花島観音（天福寺）

花島公園内の、花見川を見下ろす高台に立つお堂。毎年春には、健脚や旅の安全を祈念して仁王門にわらじを結び奉納する『わらじ市』が開かれ、賑わう


富士山
美浜大橋
東京湾と富士山の向こうに沈む夕日が美しい。
美浜区
浜田川
浜田川緑地
幕張豊砂
湾岸習志野 IC
幕張本郷
京成千葉線
総武線
京葉線
幕張海浜公園
海浜幕張
JR花見川橋梁
日本初の鉄筋コンクリート箱桁橋。
京成幕張
幕張
旧河道
浪花橋
瑞穂橋
しらさき公園
花見川千本桜緑地
花見川区役所
湾岸千葉 IC
新幕張橋
幕張橋
花見川橋
新花見川橋
真砂大橋
若葉第1・2号橋
花見川緑地
磯辺橋
北磯辺第4公園
真砂4丁目第2公園
手づくり公園まさご
検見川
検見川神社
かつて瑞穂地区に揚水するために使われていた「揚水機」が参道沿いに保存されている。
新検見川
美浜区役所
検見川浜
真砂中央公園
カラス山
台地を削って川を通したため、台地の先端が島状に残った。
浜田川流域
屋敷谷津
幕張谷津
長作制水門
高潮等による海水の逆流を防ぐための門。花見川には長作と天戸の2か所に設置されている。
青木昆陽甘藷試作地（県指定史跡）
武石 IC
汐留橋
花見川桜並木
玄鼻橋
畑町西谷津
畑町東谷津
神場公園
花見川流域
京葉道路
さづきが丘団地
積橋貝塚公園
積橋貝塚（国指定史跡）
積橋谷津
積橋本郷第1公園
宮野木 JCT
宮野木支線
東関東自動車道
小中台西公園
宮野木中央公園
袖ヶ浦第3緑地
磯辺公園
草野水路
こじま公園
千葉ドッグ本社（国登録文化財）
北高浜公園
稲毛海浜公園
稲毛海岸
京成稲毛
稲毛公園
旧神谷伝兵衛稲毛別荘（国登録文化財）
稲毛
草野水路流域
草野水のみち
穴川中央公園
園生の森公園
穴川 IC
千葉山（県指定史跡）
穴川スポーツセンター
稲毛区役所
都川流域
稲毛区
実籾
長作見晴台
諏訪神社へ上る階段脇が見晴台として整備されている。
長作谷津
長作特別緑地保全地区
長作みどり公園
かつての分水界
印旛放水路が掘削される前の分水界。
八千代市
八千代台
京成本線
大工事で切り開かれた分水界。約20mの崖にはさまれた深い谷になっている。
鉄道連隊演習線
花見川橋梁橋台跡
花見川団地
柏井特別緑地保全地区
柏井谷津
川沿いがお花見広場になっていて、桜や菜の花が楽しめる。
花見川（印旛放水路）
柏井橋
横戸緑地
こてはし台団地
天戸大橋
花見川大橋
花島公園
花島橋
天戸制水門
高潮等による海水の逆流を防ぐための門。
花見川区
千葉市ふるさと農園
柏井浄水場
利根川と印旛沼から取水し、千葉市や船橋市などに水道水を供給している。
こてはし台調整池
“多自然型調整池”を目指して住民主体で整備された憩いの場。ボードウォークから生き物を観察できる。
千葉北 IC
子和清水調整池
清掃工場や温水プールに隣接して設けられた調整池。お花見広場が整備されている。
宇那谷調整池

鹿島川

古より農の営みを支えてきた川は今

広がる空の下
谷津田の緑に清水が湧き出す
変わらぬ里山の風景を潤しながら
時代の風巻に川面は波立ち
なつかしい未来を待つ

鹿島川

古より農の営みを支えてきた川は今

縄文時代に端を発する谷津田と湧水の世界

鹿島川の上・中流部が通る市内東部は、田園の中に縄文遺跡や古墳が点在する歴史ある土地。広やかな水と緑の風景が郷愁を誘います。

里山の大事な要素・谷津田も数多く残っています。蛇行しながら進む鹿島川の流れが台地を削った細長い谷に人々は水を引き、田をつくって稲を育ててきました。

若葉区内の鹿島川流域には谷津田の風景が多く残る

その後の土地改良・耕地整理で流路を変えられ、一部は幅広い直線となりながらも、鹿島川流域は変わることなく千葉を支える穀倉です。毎年4月から8月にかけては地元の農家が『水当番』を持ち回り、

川から汲み上げた水をそれぞれの田んぼに分配する習慣も続いています。

豊かな湧水があちこちで見られるのも魅力でしょう。川水ともに田畑に使われ、今も農家の人々にとって欠かすことのできない澄んだ恵みは、かつて子どもたちの乾いた喉をも潤したものでした。

秋晴れの下、住民総出で川沿いの草刈りが行われていた

千葉の川人

川と共にあった暮らし 郷土の歴史を伝え続ける

いずみ郷土史研究会
片岡昭朗さん

いずみウォークと銘打って、点在する遺跡や石仏、巨木を訪ねるツアーを続けています。この地域は縄文時代から土器づくりが盛んで、東金や八千代方面には出荷もしていたんですよ。

鹿島川沿いには土器の窯跡が多く、小学校の敷地内でも遺跡が見つかっています。当時つくられた土器が地表に出ている遺跡もあって、地元の小学生を連れて拾いに行ったりもしています。

昔の鹿島川はもっと蛇行していて、川のおかげで人の暮らしが成り立っていました。生活の場も、もとは川沿いにありましたが、徐々に上へと上がっていったようです。

川沿いの道は犬の散歩などでいつも人が歩いています。他地域ナンバーの車も来ていますね。川面に直接下りられる階段がある箇所もあるのですが、普段は草に覆われていて、使う人はほとんどいません。

上からだけでなく川の中や、もっと下流からなど、視点を変えるだけで別のものが見えてくる。鹿島川に近づける場、親水空間がもっとあった方がいいと思っています。

あちこちで湧水が見られる。耕地整理時に埋められたり、パイプを通され農業用水として使われているものも多い

鹿島川

古より農の営みを支えてきた川は今

里山風景の中、自然志向の農と食を体験

たくさんの小さな流れがつくる谷津田を舞台に、豊かな水を背景とする農の暮らしを受け継いできた鹿島川沿川。

人と自然が共生する里山の記憶も残るこの地域では、耕作を休んでいる土地での農業体験や、牧場の一部をキャンプサイトとして転用するなど、まちと農村を結ぶプラットフォームが生まれはじめています。

昭和 36 年（1961 年）、発動機を使った脱穀作業。稲作は昔も今も里山の主役（撮影・前角榮喜　写真提供：千葉市立郷土博物館）

菜園を借りて野菜や米をつくり、味噌など伝統発酵食の仕込みを体験し、あるいは親子で谷津田に暮らす鳥や虫たちの観察を楽しんだり。

心惹かれるプログラムに誘われ、気軽に里山に身を置く時間もまた、まちの暮らしと農の営みが近接する千葉の土地柄ならではでしょう。

富田さとにわ耕園は、休耕田や牧場跡地の広大な敷地に花壇や遊歩道、池、農業体験農園までそろう。春は芝桜の絨毯が見事

千葉の川人

近場で自然体験できる ここを“第二の田舎”に

わたしの田舎 谷当工房
金親博榮さん

谷当工房は１９８８年から活動を続けています。所有している水田や山林で米づくりや椎茸栽培をしてもらう農業体験イベントには千葉市内の子どもたちや親子、一般の人たちが参加してくれます。最近は農業以上に“自然体験志向”のリピーターさんも増えてきました。

“食べ物を自らつくる”ことをもっと身近に感じてほしくて、千葉市が進める『つくたべ（つくってたべる）』プロジェクトにも参加しています。人間は分業によって文明を発達させてきたけれど、そろそろ変わっていかないと…

谷当町にある谷津田の一角を『堂谷津の里』と名付け、自然を保全しながら湧水を利用した無農薬の米づくりもするグループとの協働も進めています。環境省が運営する自然共生サイト認定にも参加申請し、認定を受けたところなんですよ。

現代の人って、時間がないでしょう？　そんなライフスタイルを変えたいのです。「おもしろそう」「おいしそう」きっかけはなんでもいい、ここを自分の田舎だと思って、とにかく現場に来てみてほしいですね。

鹿島川

古より農の営みを支えてきた川は今

生き物にも人にも優しく よみがえれ ふるさとの川

農業用水、さらに里山の景観要素として地域を潤し存在感を放つ鹿島川。その一方でゴミの投棄や飼育していたカミツキガメを誰かが放流したりと、足を入れることが憚られる「危ない水辺」にもなっています。

ヤマベ釣りや岸辺で花を摘んでのままごとなど、今の小中学生を子に持つ親世代まではあたりまえだった川遊びは遠くなり、ど

『晩秋の朝　川霧の谷当橋』（撮影：甘利 言）千葉市の川の風景フォトコンテスト鹿島川賞受賞作品

鹿島川に棲む主な生き物

- ●ギバチ
- ●サワガニ
- ●コイ
- ●シマドジョウ
- ●スナヤツメ
- ●アメリカザリガニ
- ●ハグロトンボ
- ●ヤマトシジミ
- ●ヨシノボリ
- ●シマヘビ　など

千葉の川人

川整備は護岸と親水が肝　もう一度水に触れたい

NPO 法人鹿島川の水と緑を考える会 理事長
髙梨正美さん

子どもの頃の鹿島川はもっと曲がりくねっていて、フナやコイをモリでついて獲っていました。土地改良で田んぼを整形するため流路を変え、水をポンプアップするようになってからは変わりましたね。

NPO では年に 2 回の草刈りとゴミ清掃とで水辺環境の保全につとめています。川沿いの道は車椅子で散歩できる範囲まで草を刈りますよ、子どもや孫を連れて歩きながら「昔はフナが釣れたよ」といった話もできるように。ただ、地域は高齢化して子どもも減っているので、いつまでできるか少し心配です。

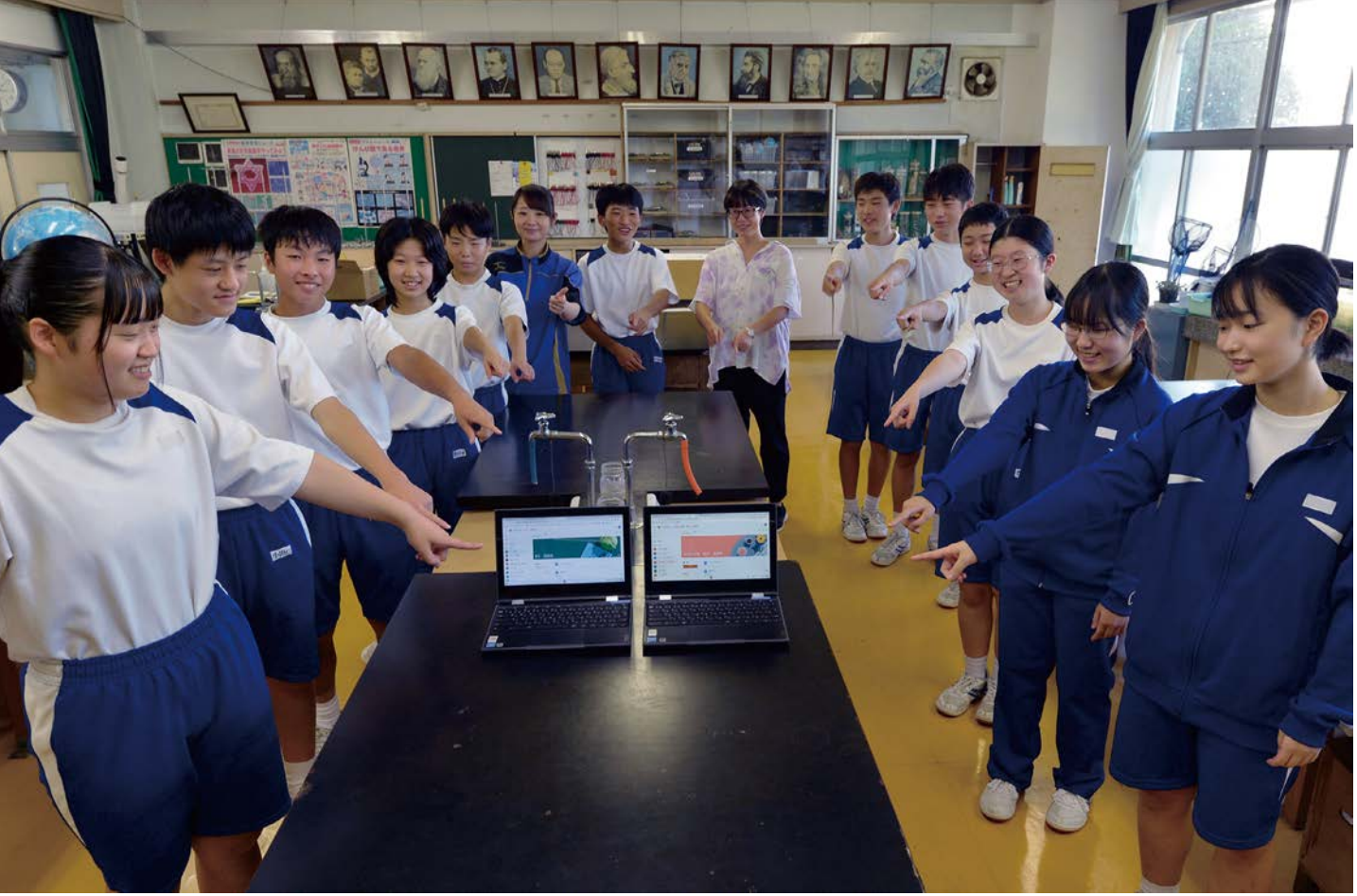
ゴミ投棄の増加や危険なカミツキガメの存在などで、田園風景を楽しみながらの心地よい散歩も怪しくなりつつあります。護岸のところどころに水面まで降りる階段がありますが、水に直接さわれる場所はあまりないような…

水に触れられる施設ができるのはいいと思います。下流から少しずつ進められている河川整備、護岸工事と一緒に親水空間もできるといいね。ただし工事が進むのは年に 200m 程度なので、まだ時間がかかるかな（笑）

ちらかといえば川は危険なところ、というイメージに。

こうした中で地元・更科中学校が取り組む地域学習では毎年、鹿島川の自然や生き物がテーマに選ばれています。生徒たちは実際に川に入って水質や生き物を調査・研究。まとめた成果を『うつしの祭（更科中学校の文化祭）』で発表し、誇りを持って世界に発信しているのです。

絶滅危惧種や外来生物の発見で盛り上がりつつ、ふるさとの自然を知り、川が抱える課題に向き合っていく。彼らの頼もしい笑顔こそ、人にも生き物にも優しい鹿島川を取り戻す一番の力に違いありません。



更科中学校自然班のみなさん。実際に川に入って調査研究した水質と生物に関する彼らの知見は後輩に引き継がれ、ふるさとの川の未来を守るよすがとなる

昭和 32 年（1957 年）、鹿島川での魚獲り風景。ウナギを狙ったこの二人組は大ナマズを捕らえたという（撮影・前角榮喜　写真提供：千葉市立郷土博物館）

鹿島川 マップ

古より農の営みを支えてきた川は今

●原田池

富田さとにわ耕園の奥で静かに水を湛える池。カモ類やカワウなど多くの野鳥も訪れる。かつては水難が多い池であり、池の主としての白蛇伝説が今も残る。地域の人々の畏怖の対象として大切にされてきた

八街市

中野谷津

鹿島川流域（利根川流域）

山田IC

殿川橋

鎌田橋

中野IC

千葉中谷津

沢の台谷津

千葉東金道路

若葉区

妙興寺

八反目遺跡

大池

農業用溜池として作られた池。周囲には桜が植えられ、遊歩道が整備されている。

野呂谷津

平川橋

平川公園

平川谷津

人工物がほとんどない静かな谷津が残る。

平川南谷津

大和田橋

下大和田公園（土気小学校第二分校跡）

大根尻橋

大和田調整池

下大和田谷津（重要里地里山・重要湿地）

北総地域における典型的な谷津環境が残る地域であり、希少植物や多様な動植物の生息空間となっているとして、環境省の重要里地里山に選定されている。千葉市内の谷津の中で自然環境の資質の評価が最も高い。

下大和田西谷津

旧国境

下大和田東谷津

土気谷津

高津戸北谷津

緑区

土気中峠公園

土気調整池

高津戸調整池

高津戸谷津

この辺りは利根川流域で最南端の源流域にあたる。

土気駅

昭和の森

大高調整池

大高谷津

外房線

村田川流域

小山谷津

凡例

- 川
- 川(暗渠)
- 池・調整池
- サイクリングコース
- 通路・道
- 通路・道(未舗装)
- 高速道路
- 国道
- 県道
- 市道
- 鉄道(JR)
- 鉄道(私鉄)
- 分水界
- 市区境
- 旧国境
- 主な公園・緑地
- 特別緑地保全地区
- 橋
- 貝塚
- 史跡
- 文化財
- 湧水
- ビューポイント

N

(m) 100 50 0

scale=1/45,000

0 1km

鹿島川周辺図

●若葉ルート

鹿島川流域の谷津田や田園を縫って走るサイクリングのモデルコース。さとにわ耕園やいずみの森、谷当工房などの拠点を結び、休憩やトイレの使用も安心だ。サイクリングはもちろん、ウオーキングや自然観察も楽しめる

佐倉市

尾牛橋

堤橋(土手)

佐倉藩主の土井利勝が、御成街道造成の資材運搬のために谷津を横断するようにつくらせた堤。佐倉古道の経路にあたる。

明神台調整池

ドンドン堰跡

田んぼの水資源の確保のために設けられた堰。水音がドンドンと聞こえたという。鹿島川やその支流には、富田堰、五反田堰、ガハガハ堰など数多くの堰が作られた。

千葉リサーチパーク

白池台調整池

谷当橋

候嶽神社

下泉谷津

53

白幡神社

谷当谷津(堂谷津)

昔ながらの谷津田が見られる。

下泉橋

高台から谷津を一望できる

県道から谷津を一望できる

女城城跡

宝泉寺

小間子谷津

人工物がほとんどない静かな谷津が残る。

いずみの森

大井戸橋

学校橋

上泉橋

泉橋

大宮神社

新橋

吉岡橋

下田農業ふれあい館

大井戸館跡

鹿島川

富田さとにわ耕園

千葉ウシノヒロバ

五反田橋

原田池

鰻山湧水

金親谷津

鹿島川流域(利根川流域)

県道から谷津を一望できる

金親調整池

金光院谷津

昔ながらの谷津田が見られる。

御殿1号調整池

富田橋

小倉谷津

昔ながらの谷津田が見られる。

宇津志野窯跡

中田谷津

金光院

御茶屋御殿跡(市指定史跡)

中田橋

富古橋

中田やつ耕園

家康が鷹狩へ向かう際の休息所として作られた。船橋から東金のほぼ中間。土塁や薬研堀などの遺構が良好な状態で残されている。

県道沿いの高台から谷津を一望できる

千葉市農政センター

四街道市

川野辺調整池

御成街道

徳川家康が東金へ鷹狩りに出かけるために作られた。下総台地の分水界を真っ直ぐに貫く。

中原窯跡

平安時代の9世紀中頃に須恵器の製造拠点として操業していたと考えられる窯。谷津の斜面を利用して作られている。周辺には未調査の遺跡が多く存在する。

御成公園

宮田橋

66

姫池

北条氏の娘のさらしな姫が中田村の旧家に嫁いできたが、姑との折り合いが悪く、苦悩の末に池に身を投げたと伝えられる。

姫塚

姫池に入水したさらしな姫を村人たちが葬った墓と伝えられる。

若葉区

千城台北

千城台

千城台公園

千城台団地

鎌池調整池

小倉台団地

小倉台

坂月第1調整池

坂月第2調整池

滑橋貝塚(市指定史跡)

51

都川

高根橋

多部田橋

下高根橋

分水界

太平洋(鹿島川水系)と東京湾(都川水系)の分水界。尾根筋で空が広い。

縄文の森特別緑地保全地区

坂月谷津

千城台谷津

祐左衛門橋

源井天公園

64

桜木

坂月特別緑地保全地区

坂月川

佐和谷津

泉自然公園

紅嶽弁財天

加曾利貝塚(国指定特別史跡)

小桜橋

小倉大橋

羽佐間橋

大草橋

平和公園

東千葉近郊緑地特別保全地区

都賀

坂月橋

多部田谷津

多部田町2号橋

多部田調整池

貝塚特別緑地保全地区

邊田前橋

126

坂月川橋

太田橋

大宮西谷津

高田IC

みつわ台

谷ッ上公園

加曾利じゅん菜池公園

東寺山貝塚(県指定史跡)

東寺山谷津

荒屋敷貝塚(国指定史跡)

貝塚谷津

花輪貝塚(国指定史跡)

都川流域

東千葉近郊緑地保全区域

貝塚IC

京葉道路

大宮東谷津

大宮台団地

東寺山調整池

千葉市の川の年表

原始　古代　中世　近世

貝塚の形成
縄文海進が終わり、川が現れ始める。
谷津で稲作が始まる。

都川

1020（寛仁4）　更級日記の作者、菅原孝標女が上総国から上洛の旅に出る途中に、池田池を見る。

1126（大治1）　千葉常重一族が千葉（都川下流）に移り住み、この頃、千葉荘（荘園）を立てる。

千葉の町が千葉氏の本拠地として栄える

15世紀中頃　千葉氏が本拠を本佐倉城に移す。

1613（慶長18）　寒川村の布施丹後常長親子が丹後堰用水路を完成させる。

千葉の町が下総と江戸を結ぶ舟運の拠点として栄える

1724（享保9）　平戸村の染谷源右衛門が、新川の開削と干拓を幕府に出願。

1726（享保11）　しかし工事は難航し、資金不足により中止。

1780（安永9）　島田村の治郎兵衛と惣深新田の平左衛門が印旛沼の開発計画を幕府に出願。

1786（天明6）　老中田沼意次が取り組むも、利根川の大洪水により工事はふたたび中止。

1843（天保11）　幕府による印旛沼開削の調査が行われる。

1846（天保14）　老中水野忠邦により全国から五藩に普請が命ぜられ工事が行われる。しかし、水野忠邦の失脚により、工事はみたび中止。

花見川

鹿島川

850頃　中原窯など谷津の斜面を利用した窯で須恵器の製造がおこなわれる。

香取の海と千葉湊を結ぶ重要な交通路だった。

1613（慶長18）　徳川家康により御成街道が築造される。

徳川家康の利根川東遷事業により、洪水に悩まされるようになる。

戦前

明治以降
県都として
栄える

1873（明治6）
木更津県と印旛県が合併し千葉県誕生。千葉町が県庁所在地となる。

1911（明治44）
県庁・公会堂新築に合わせて都川も改修工事
川幅拡幅、流路の直線化、都橋や吾妻橋の架替え等

1921（大正10）
千葉市市制施行

戦後

1946（昭和21）
農林省によって印旛沼の干拓事業が始まる。

1963（昭和38）
水資源開発公団（現・水資源機構）によって新川開削工事が始まる。

1964（昭和39）
都川の河川改修が始まる

1967（昭和42）
大和田排水機場が運転開始

1969（昭和44）
印旛放水路が完成。二百五十年の時を経て印旛沼と東京湾がつながる。

1973（昭和48）
支川都川の河川改修が始まる

1975（昭和50）
坂月川の河川改修が始まる

1975（昭和50）
花見川サイクリングコースが完成

1979（昭和54）
丹後堰水利組合が解散

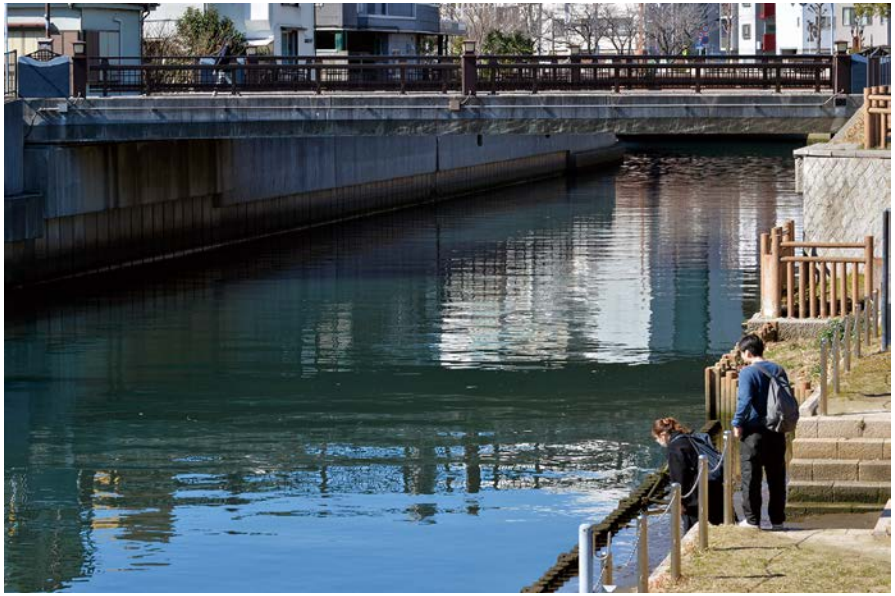
現代

1978（昭和53）
千葉市東部土地改良事業着工

1990（平成2）
千葉市東部土地改良事業完了

ゆるやかに優しい千葉の川
ふるさとの豊かさに会いにゆきましょう

千葉市には
緑の台地から東京湾の海辺まで
優しい川が流れています
身近に感じている流れに
知らなかった新たな流れに
会いにゆきましょう
そして息づく美しさを見つけたら
手を伸ばしてそっと
今度はあなたの優しさを伝えてください
わたしたちのふるさとにまたひとつ
輝きが加わるように



優しい流れに会いにゆく　千葉市の川 コンセプトブック

2025 年 5 月　第 2 刷発行
発行　千葉市都市局 都市政策課 かわまちづくり班
企画　株式会社オリエンタルコンサルタンツ
取材・編集・デザイン　合同会社青空編集事務所
地図・年表制作　合同会社みちくさ
協力　千葉市立郷土博物館／千葉市立加曽利貝塚博物館
印刷・製本　株式会社世広